

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-346606

(43) 公開日 平成11年(1999)12月21日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 0 1 K 87/00
97/06

6 4 0
5 0 1

A 0 1 K 87/00
97/06

6 4 0 D
5 0 1

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-172186

(22) 出願日 平成10年(1998)6月4日

(71) 出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72) 発明者 小路 公武

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダ

イワ精工株式会社内

(72) 発明者 早川 賢

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダ

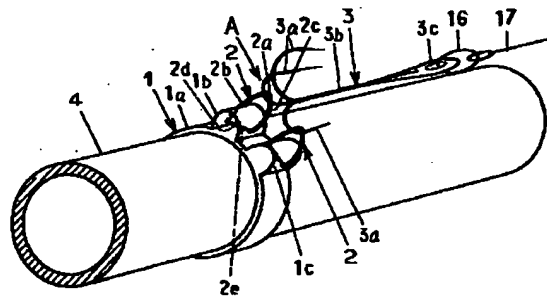
イワ精工株式会社内

(54) 【発明の名称】 釣り用針掛

(57) 【要約】

【課題】 トレブルフックの釣針が安定して係止保持でき、他の針部が指に刺さったり、車の移動時の揺れ等でシート等他の物に引っかかり難いこと。

【解決手段】 釣り用針掛Aの部材1は竿管4の外周に嵌着可能とされ、部材1の外周部1aに軸方向に長く突出した2つの突起部1b、1cが設けられて2つの突起部1b、1cに夫々穿設された周方向の横孔の中に線材で三角形形状の環状係止具2、2の底辺部分の屈曲部2d、2eが両側から夫々回動自在に挿入されている。線材で三角形形状の環状係止具2、2は頂部2aと傾斜部2b、2cと底辺部分の屈曲部2d、2eとで形成され、環状係止具2、2にトレブルフックの釣針3の複数本の針部3aの2本が係止保持されてトレブルフックの釣針3は複数本の針部3aと針部3aを分岐する軸部3bと連結環16を連結する透孔3cとで形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】竿管等に嵌着可能な部材の外周部に鉤針等を係止保持可能な環状係止具を複数設けたことを特徴とする釣り用針掛。

【請求項2】前記環状係止具に釣糸の挿通可能な隙間を設けたことを特徴とする請求項1記載の釣り用針掛。

【請求項3】前記環状係止具を前記部材の外周部に周方向に移動可能に設けたことを特徴とする請求項1記載の釣り用針掛。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、竿管に取り付けた針掛に鉤針等を係止する釣り用針掛の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の魚釣り用針掛は通常、例えば特公平8-24515号公報のように、鉤針の1ヶ所しか保持しない構造となっている。しかし、ルアー釣に用いられる鉤針はトレブルフック（3本鉤形）であり、1ヶ所しか保持しないと、他の針部が指に刺さったり、車の移動時の揺れ等でシート等他の物に引っかかってしまうといった問題を抱えていた。又、かかる針掛は、鉤針を係止保持できるが、アンダーショット・リグと呼ばれる釣糸の先端に、錘の付いた仕掛は係止保持できなく、錘より上方に位置する鉤針を係止具に係止保持すると、錘は移動時等でぶらぶらする等の不具合があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の釣り用針掛では、鉤針の1ヶ所しか保持しない構造となっているので、トレブルフックの鉤針は安定して係止保持できず、他の針部が指に刺さったり、車の移動時の揺れ等でシート等他の物に引っかかってしまうことがある。又、鉤針を係止保持できても、アンダーショット・リグの錘を係止保持できなかった。

【0004】本発明の目的は上記欠点に鑑み、トレブルフックの鉤針が安定して係止保持でき、他の針部が指に刺さったり、車の移動時の揺れ等でシート等他の物に引っかかり難い等の釣り用針掛を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項1に係わる本発明は、竿管等に嵌着可能な部材の外周部に鉤針等を係止保持可能な環状係止具を複数設けたことを要旨とするものである。

【0006】請求項2に係わる本発明は、前記環状係止具に釣糸の挿通可能な隙間を設けたことを要旨とするものである。

【0007】請求項3に係わる本発明は、前記環状係止具を前記部材の外周部に周方向に移動可能に設けたことを要旨とするものである。

【0008】

【発明の実施の形態】請求項1の本発明により、釣り用

針掛Aの環状係止具2、2'にトレブルフックの鉤針3の2本の針部3aが係止保持されるので、トレブルフックの鉤針3は環状係止具2、2'に安定して係止保持されるから、揺れたり、傾いたりせず、手の指に刺さったり、車のシート等他の物に引っかかってしまうことが防止される。

【0009】請求項2の本発明により、トレブルフックの鉤針3の2本の針部3aが係止保持出来ると共に、隙間aから釣糸17を通すことで、アンダーショット・リグのように釣糸17の先端に錘18を付けた仕掛も係止保持できる。

【0010】請求項3の本発明により、横孔1eの中で底辺部分の屈曲部2d、2eが弾性に抗して周方向に移動出来るので、環状係止具2、2'の間隔が調整できて、大小のトレブルフックの鉤針3に対応することができる。

【0011】

【実施例】以下、図示の実施例によって本発明を説明すると、図1から図3は第1実施例で、図1は釣竿の竿管にリールと釣り用針掛と釣糸ガイドが装着された斜視図、図2は竿管に釣り用針掛が装着された要部拡大斜視図、図3は釣り用針掛の拡大斜視図である。

【0012】釣り用針掛Aにおいて、部材1はゴムなどの弾性材からなる環状体の外周部1aに軸方向に長く突出した2つの突起部1b、1cが設けられ、2つの突起部1b、1cに夫々穿設された周方向の横孔の中に線材で三角形形状の環状係止具2、2の底辺部分の屈曲部が両側から夫々回動自在に挿入されている。線材で三角形形状の環状係止具2、2は頂部2aと傾斜辺2b、2cと底辺部分の屈曲部2d、2eとで形成されている。線材で三角形形状の環状係止具2、2にトレブルフックの鉤針3の複数本の針部3aの2本が係止保持されている。部材1は釣竿Bの竿管4の外周でリール5の前側で釣糸ガイド6の後側に装着されている。釣竿Bは竿管4の前に竿管7、8、9が図では振り出し式に収納され、竿管7に釣糸ガイド10、11が、竿管8に釣糸ガイド12、13が、竿管9に釣糸ガイド14、15が夫々遊嵌または固定されている。

【0013】トレブルフックの鉤針3は複数本の針部3aと針部3aを分岐する軸部3bと連結環16を連結する透孔3cとで形成されている。連結環16は図示しないルアー本体もしくは釣糸17へと接続される。リール5から引き出された釣糸17は各釣糸ガイドを通されると共にトップガイド15から引き出された先端に図示しないルアー本体を介してトレブルフックの鉤針3が固定されている。釣り用針掛Aの環状係止具2、2にトレブルフックの鉤針3の複数本の針部3aの2本が係止される時は、トップガイド15から折り返された釣糸17が図示しないルアー本体へと結ばれ、そのルアー本体に備えたトレブルフックの鉤針3の針部3aが環状係止具2、2に係止保持される。

【0014】前記のように釣り用針掛Aが構成されると、釣り用針掛Aの環状係止具2、2にトレブルフック

の釣針3の2本の針部3aが係止保持されるので、トレブルフックの釣針3は環状係止具2、2に安定して係止保持されるから、揺れたり、傾いたりせず、手の指に刺さったり、車のシート等他の物に引っかかってしまうことが防止される。

【0015】図4から図6は第2実施例で、図4は釣竿の竿管にリールと釣り用針掛と釣糸ガイドが装着された斜視図、図5は釣り用針掛の拡大斜視図と要部拡大斜視図、図6は釣り用針掛の拡大背面図である。

【0016】第2実施例では、一方の線材で三角形の環状係止具2'は頂部2aと傾斜辺2b、2cと底辺部2fで形成されると共に、傾斜辺2cと底辺部2fの間に隙間aが形成されている。底辺部2fは2つの突起部1b、1cに夫々穿設された周方向の横孔の中に夫々回動自在に挿入されている。他方の線材で三角形の環状係止具2は前記第1実施例と同形である。他方を一方と同形にしてもよい。他の構成は前記第1実施例と略同一である。

【0017】第2実施例では前記第1実施例と同様にトレブルフックの釣針3の2本の針部3aが係止保持出来ると共に、一方の線材で三角形の環状係止具2'にアンダーショット・リグと呼ばれる釣糸17の先端に付いた鍾18を隙間aから釣糸17を通すことで係止保持出来る。図4で鍾18の上側の釣糸17には釣針19が取り付けられている。

【0018】第2実施例のように釣り用針掛Aが構成されると、トレブルフックの釣針3の2本の針部3aが係止保持出来ると共に、隙間aから釣糸17を通すことで、アンダーショット・リグのように釣糸17の先端に鍾18を付けた仕掛も係止保持できる。

【0019】図7は第2実施例の変形例で、図7は釣り用針掛の要部拡大斜視図である。

【0020】変形例では、線材で三角形の環状係止具2'の底辺部2fが突起部1bの周方向の横孔の中に回動自在に挿入された後屈曲部2gが形成されて屈曲部2gと傾斜辺2cとの間に隙間aが形成されている。他の構成は前記第2実施例と略同一である。

【0021】図8、図9は第3実施例で、図8は竿管に釣り用針掛が装着された要部拡大斜視図、図9は釣り用針掛の拡大斜視図である。

【0022】第3実施例で釣り用針掛Aにおいて、部材1はゴムなどの弾性材からなる環状体の外周部1aに周方向に長く突出した突起部1dが設けられ、突起部1dに軸方向に向けて幅広の横孔1eが穿設されている。横孔1eの中に線材で三角形の環状係止具2、2の底辺部分の屈曲部2d、2eが前後から夫々回動自在にかつ弾性に抗して移動可能に挿入されている。線材で三角形の環状係止具2、2は頂部2aと傾斜辺2b、2cと底辺部分の屈曲部2d、2eとで形成されている。線材で三角形の環状係止具2、2にトレブルフックの釣針3の複数本の針部3aの2本が係止保持されている。他の構成は前記第1実施例と

略同一である。

【0023】第3実施例のように釣り用針掛Aが構成されると、横孔1eの中で底辺部分の屈曲部2d、2eが弾性に抗して周方向に移動出来るので、環状係止具2、2の間隔が調整できて、大小のトレブルフックの釣針3に対応することができる。

【0024】第3実施例では突起部1dに軸方向に向けて幅広の横孔1eが穿設されたが、2本の横孔を穿設して夫々に線材で三角形の環状係止具2、2を回動自在に挿通してもよい。第3実施例の一方の線材で三角形の環状係止具を前記第2実施例の隙間aを有する環状係止具2'としてもよい。

【0025】図10から図13は第4実施例で、図10は魚釣り用スピニングリールの脚部に釣り用針掛とルアーが取り付けられた斜視図、図11は脚部に釣り用針掛とルアーが取り付けられた拡大斜視図、図12は図11の要部拡大斜視図、図13は釣り用針掛の背面図である。

【0026】第4実施例で釣り用針掛Aにおいて、部材1'はネオプレン等の弾性を有する帯状体や帯紐体の外周部1aにゴムなどの成形で一体に周方向に長く突出した突起部1dが設けられ、突起部1dに軸方向に向けて幅広の横孔1eが穿設されている。部材1'の両端の一方の内側と他方の外側に夫々面ファスナーからなる係止具20、21が固定されている。横孔1eの中に線材で三角形の環状係止具2、2の底辺部分の屈曲部2d、2eが前後から夫々回動自在にかつ弾性に抗して移動可能に挿入されている。線材で三角形の環状係止具2、2は頂部2aと傾斜辺2b、2cと底辺部分の屈曲部2d、2eとで形成されている。線材で三角形の環状係止具2、2にルアー本体22に取り付けられたトレブルフックの釣針3の複数本の針部3aの2本が係止保持されている。他の構成は前記第1実施例と略同一である。

【0027】釣り用針掛Aが魚釣り用スピニングリール5'の脚部5aに取り付けられる時は、帯状体の部材1'が脚部5aに巻き付けられて係止具20、21で止められる。環状係止具2、2には前記他の実施例の形状の環状係止具2、2'を用いてもよい。

【0028】図14は第5実施例で、図14は釣り用針掛の拡大背面図である。

【0029】第5実施例で釣り用針掛Aにおいて、部材1''はゴムなどの弾性材からなるΩ字状体の外周部1aに軸方向に長く突出した2つの突起部1b、1cが設けられ、2つの突起部1b、1cに夫々穿設された周方向の横孔の中に線材で三角形の環状係止具2、2'の底辺部分の屈曲部が両側及び一方から夫々回動自在に挿入されている。部材1''の両端は外側に屈曲されている。他の構成は前記第1実施例と略同一である。

【0030】釣り用針掛Aが竿管に取り付けられる時は、部材1''が竿管の外周に載せられて押し下げられると竿管に嵌着されている。

【0031】前記説明では、釣竿Bを振り出し式釣竿で図示したが他の形式の釣竿に用いてもよい。前記説明では、釣竿Bとリール脚部に釣り用針掛Aを取り付けることで述べたが、これ以外の物体に取り付けてもよい。

【0032】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0033】請求項1の本発明により、釣り用針掛の環状係止具にトレブルフックの鉤針の2本の針部が係止保持されるので、トレブルフックの鉤針は環状係止具に安定して係止保持されるから、揺れたり、傾いたりせず、手の指に刺さったり、車のシート等他の物に引っかかってしまうことが防止される。

【0034】請求項2の本発明により、トレブルフックの鉤針の2本の針部が係止保持出来ると共に、隙間から釣糸を通すことで、アンダーショット・リグのように釣糸の先端に錘を付けた仕掛も係止保持できる。

【0035】請求項3の本発明により、環状係止具の間隔が調整出来るので、大小のトレブルフックの鉤針に対応することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例で、釣竿の竿管にリールと釣り用針掛と釣糸ガイドが装着された斜視図である。

【図2】同竿管に釣り用針掛が装着された要部拡大斜視図である。

【図3】同釣り用針掛の拡大斜視図である。

【図4】第2実施例で、釣竿の竿管にリールと釣り用針

掛と釣糸ガイドが装着された斜視図である。

【図5】同釣り用針掛の拡大斜視図と要部拡大斜視図である。

【図6】同釣り用針掛の拡大背面図である。

【図7】第2実施例の変形例で、釣り用針掛の要部拡大斜視図である。

【図8】第3実施例で、竿管に釣り用針掛が装着された要部拡大斜視図である。

【図9】同釣り用針掛の拡大斜視図である。

10 【図10】第4実施例で、魚釣り用スピニングリールの脚部に釣り用針掛とルアーが取り付けられた斜視図である。

【図11】同脚部に釣り用針掛とルアーが取り付けられた拡大斜視図である。

【図12】同図11の要部拡大斜視図である。

【図13】同釣り用針掛の背面図である。

【図14】第5実施例で、釣り用針掛の拡大背面図である。

【符号の説明】

A 釣り用針掛

a 隙間

1、1'、1" 部材

1a 外周部

2、2' 環状係止具

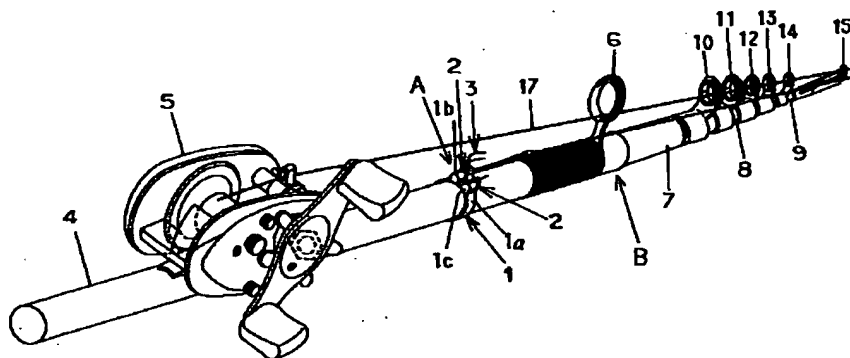
3、18 鉤針等（トレブルフックの鉤針、錘）

4 竿管

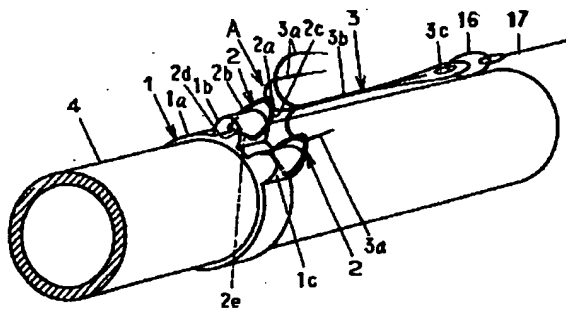
5a 脚部

17 釣糸

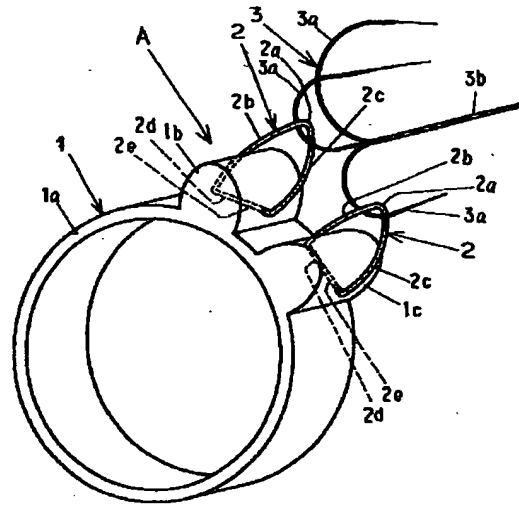
【図1】



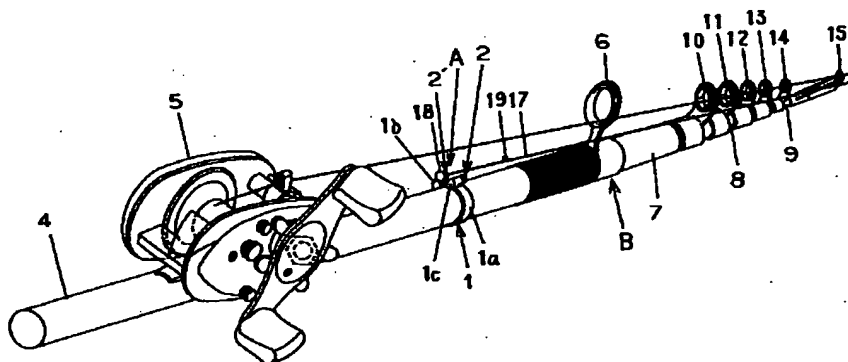
【図2】



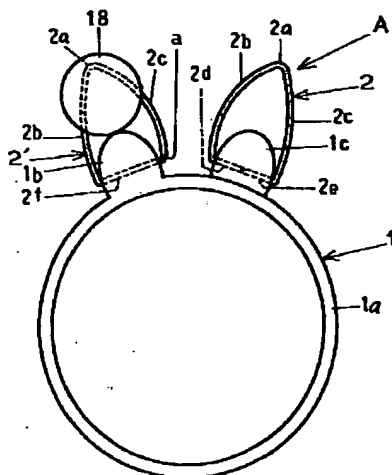
【図3】



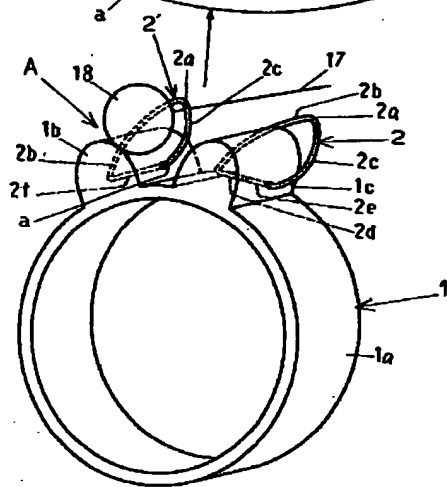
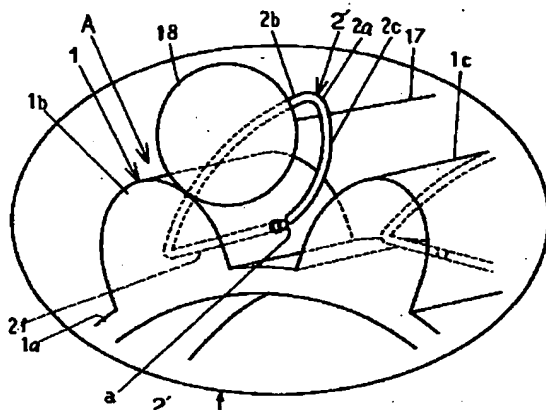
【図4】



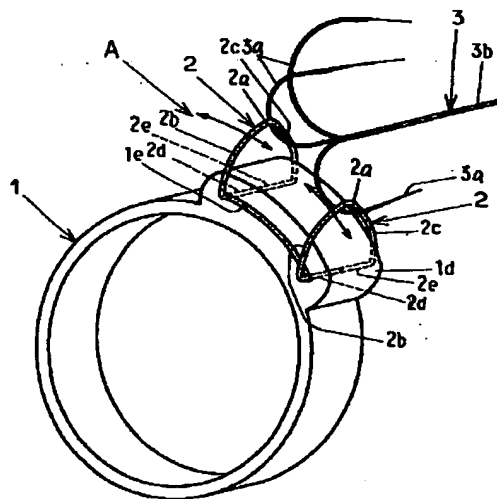
【図6】



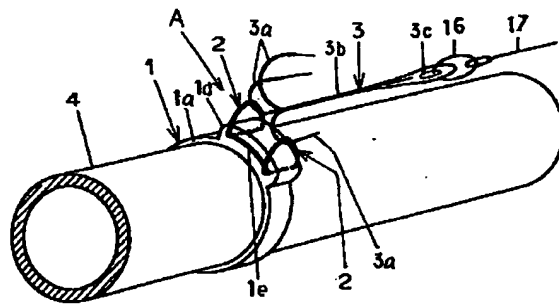
【図5】



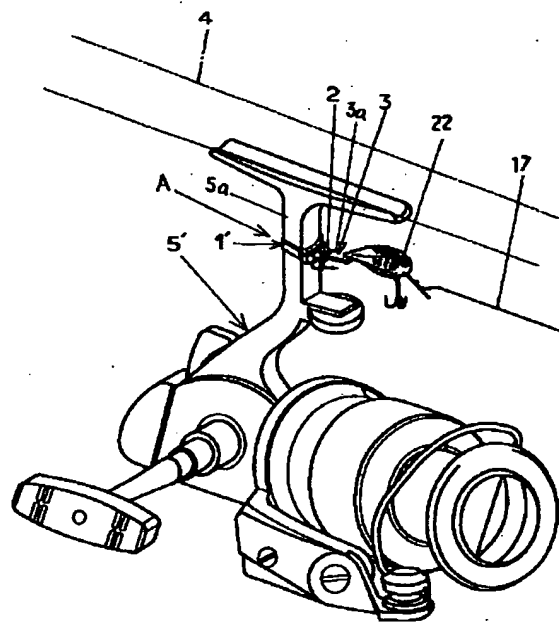
【図9】



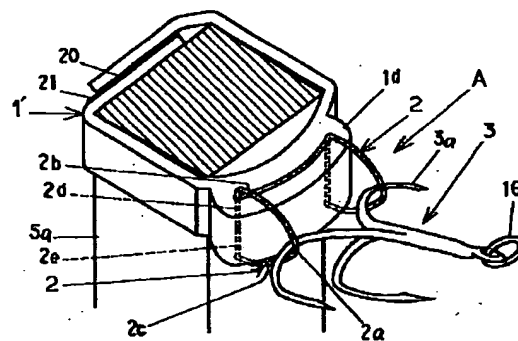
【図8】



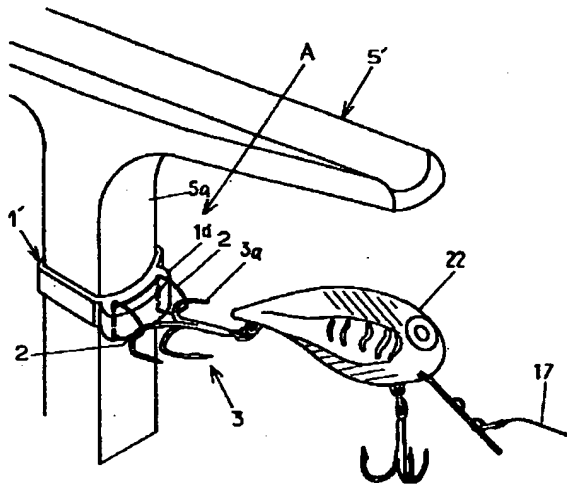
【図10】



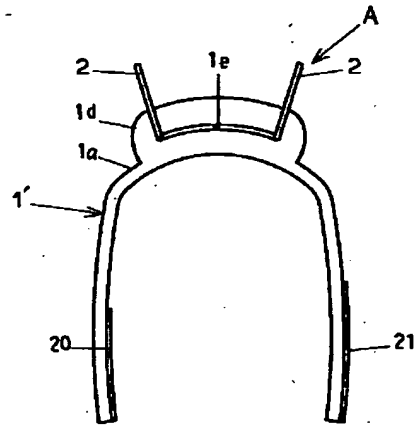
【図12】



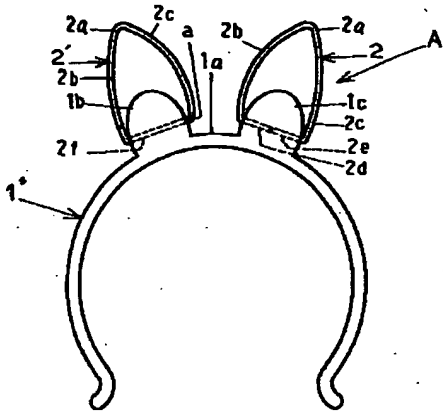
【図11】



【図13】



【図14】



PAT-NO: JP411346606A

DOCUMENT-IDENTIFIER:

TITLE: HOOK RETAINER FOR FISHING

PUBN-DATE: December 21, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SHOJI, KIMITAKE

N/A

HAYAKAWA, MASARU

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

DAIWA SEIKO INC

N/A

APPL-NO: JP10172186

APPL-DATE: June 4, 1998

INT-CL (IPC): A01K087/00,

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a hook retainer for fishing capable of stably being engaged with and holding a hook of a treble hook, making other hook parts hardly stick in a finger and hardly catch other things such as a seat, etc., in the shake, etc., of an automobile during movement.

SOLUTION: A member 1 for a hook retainer A for fishing can be engaged with the outer periphery of a rod pipe 4. The outer peripheral part 1a of the member 1 is provided with two projection parts 1b and 1c projected long in the axial direction and dent parts 2d and 2e at the base parts of triangular annular engaging tools 2 of linear materials are inserted into holes in the circumferential direction bored in the two projection parts 1b and

1c,
respectively. The triangular annular engaging tools 2 of linear
materials
comprise top parts 2a, slope sides 2b and 2c and bent parts 2d and 2e
at the
base parts. Two hook parts of plural hook parts 3a of a hook 3 of a
treble
hook are engaged with and retained on the annular engaging tools 2.
The hook 3
of a treble hook comprises the plural hook parts 3a, a shaft part 3b
for
branching the hook parts 3a and a through hole 3c for linking a
connecting ring
16.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

DERWENT-ACC-NO:

DERWENT-WEEK: 200010

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Fishing needle retainer - has multiple
toroidal clamp tools provided to periphery of attachable unit
for clamping on pole tube

PATENT-ASSIGNEE: DAIWA SEIKO KK[DAIWN]

PRIORITY-DATA: 1998JP-0172186 (June 4, 1998)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 11346606 A	December 21, 1999	N/A
007 A01K 087/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 11346606A	N/A	1998JP-0172186
June 4, 1998		

INT-CL (IPC): A01K087/00,

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 11346606A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Multiple toroidal clamp tools (2) are provided to the periphery of an attachable unit (1) for clamping on pole tube (4). DETAILED DESCRIPTION - The clamp tool is formed with winding portions (2d,2e) by wire at the base side and inserted on the protruding portions (1b,1c) of attachable unit. The upper side of the clamp tool is formed with top (2a) and inclination sides (2b,2c) by wire. A set of needles (3a) of fishing hook (3) are clamped to the clamp tools.

USE - For fishing.

ADVANTAGE - Fishing hook is prevented from clinging to seat of vehicles while conveyance. Big and small fishing hook can be accommodated by adjusting internal of clamp tool. DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows partial expanded isometric view of fishing needle retainer. (1) Attachable unit; (1b,1c) Protruding portions; (2) Toroidal clamp tool; (2a) Top; (2b,2c) Inclination sides; (2d,2e) Winding portions; (3) Fishing hook; (3a) Needle; (4) Pole tube.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.2/14

TITLE-TERMS: FISH NEEDLE RETAIN MULTIPLE TOROIDAL CLAMP TOOL
PERIPHERAL ATTACH
UNIT CLAMP POLE TUBE

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-084177